

# 北海道商工業振興審議会 第3回 ものづくり産業振興部会 議 事 概 要

日時：平成25年11月19日(金) 14:00～15:30

場所：かでの2・7 8階 820研修室

## 1 開 会

- ※ 事務局から会議の成立についての報告

## 2 挨 拶

○産業振興局長から挨拶

- ※ 事務局から会議の公開についての報告

## 3 議 事

(1) 「本道のものづくり産業振興の新たな展開方向」の検討について

- ※事務局から資料1から3の説明

### 【主な意見等】

- 目標に、事業量による目標設定とあるが具体的には。
  - 道に関わる研究会や産学官連携の枠組みの数などを考えている。例えば、農業団体ともものづくり企業が連携して一つのプロジェクトを開発する枠組みを全道でいくつというようなもの。人材力は、公的な支援を活用して女性の働きやすい環境づくりをした件数や、ハローワークと連携して面接会を行って、何人女性を雇い入れたといった事業量を考えている。
- 概ね納得できる内容。個々の企業の技術力、競争力を高めることについては、日々、製品をつくりながら取り組んでいる。この機械があればこの品物がつくれるということが日常的にあるが、金額的に高いものであったりする。
- 北海道の農産物を原料にして製品をつくり、付加価値の高いものをつくることに役立ちたいが、お金のかかることもある。我々ももっといろいろな情報を探しながら、公的な資金や援助を勉強しなければならない。
- 気になったのは技術力で、企業は日常的に努力している。技術力を上げていくのは当たり前のこと。ワンランクアップとなっているが気になる。自動車産業などの「量産モノ」に参入することは技術力が高まる。かかわらなくても目指す意識が必要。

- 最高レベルのものづくりを目標にする、経験することで技術力を高めることが出来る。そこを指向しながら新しいものに取り組んでいくことが必要。
- 技術力とともに、設計力、企画力、デザイン力、開発力を向上しないとものづくりは成り立たないのではないか。
- 「地域の困った」の「地域」は、企業・産業ばかりではなく、住民などの社会的環境も含めたものを意識した表現か。はっきりしたほうが理解しやすい。
- 「産業振興ビジョン」の実現に向けて取組を加速とあるが、目指す姿として「自立型経済産業構造」と表現されている。この4つのテーマ、共通テーマをどうするのか。  
→ 過去に「ワンランクアップ」を進め、どの企業にいても社内で共有し頑張ろうということでキーワードとして使われていた。「自立型経済産業構造」は社内のキャッチフレーズにならない。現実的に手の届くところから取組を進め、少しでも目標に近づけていく考え方。計画と皆さんの日々の取組の間をつなぐ、加速の役割を持ったものをつくりたいのが趣旨。
- 以前、夢の話をしたが、夢というのはアウトプットが明確になっていて、夢が持てるから強い意志が生まれ、強い意思があるからチャレンジすることに繋がっていく。  
「連携力」だけでもいろんな夢を描くことが出来る。例えば、官民一体となって、北海道を何かの一大産地にしようということをアウトプットに掲げ、道がコーディネートするとおもしろいと思える人が出てくる。
- 女性の雇用では男女の区別は出来ないで、現実的に法律の関係でどうなのか。
- 北海道は米どころになった。生産者がPDCAの繰り返しでここまで来たと思う。失敗を重ね対応を考えることが、技術力のワンランクアップに繋がる。
- わかりやすいキャッチコピーとして「ものづくりなでしこ」と記載。趣旨の全員参加型社会への対応という中で、特に女性をというつくりになっている。企業によって男性の採用や高齢者の活用など、いろいろな視点があるので、キャッチコピーと実際どう考えていくか、整合性がとれるように中身を考えてほしい。
- 「連携力」で互いに組んで良かったということは、何かが出来、販売され、成功したときの結果。連携しましょうという話が合っても、出口がないと途中でだめになってしまうので、販売や販路も含めたニュアンスがないと連携する気にならない。技術力を持った両者が組んでもいいものができるか、いいものが出来ても売れるかどうか別の話になるので、それを含めた取組が分かるものを入れてもらうといい。
- 人材の育成が非常に大事。人材力に書かれている内容の印象ではスキル向上の感じがする。今の社会はそれだけでは人材という評価にならないので、幅広い視点の

人を育てなければならないというニュアンスが出ないかと思う。

- 展開方向に関しては、キャッチフレーズがキーワードであるという話があったので、こういう形になると思うが、企業から見るともう少し具体的なイメージだとか、具体的方策を提示した方が企業はやりやすいと感じた。
- 産業振興ビジョンの実現を加速と書いてあって、ビジョンに細かく目標を掲げ、連携力、人材力、技術力、経営力のキーワードが加速に必要な項目としてあげられているが、加速するのであればこの部分について具体的な項目があった方が加速する。
- 連携が重要と考えていて、連携力の取組の表現が、人材力の取組と比べると、ざっくりとした表現になっているので、キャッチフレーズプラス細かい取組について、もう少し具体例を示していただければいい。
- 全体的な印象として積極性に欠ける。ワンランクアップは既存の技術の中でのワンランクアップだと思うが、オンリーワンの技術を目指すべき。企業がオンリーワンを目指すのは難しいので、行政の支援が重要。実行あるものとするためには、キャッチフレーズではなく仕組みづくりが必要。
- 数値目標は評価が簡単なので適切でない目標を設定した場合は、数値目標が目的となって、本来のものとかけ離れてしまうので、慎重な議論が必要。
- 人材育成の観点で、自動車産業の会社で女性が来てくれないという話がよくある。北海道の人材は優秀で、特に女性を増やしたいが女性は来てくれないという話がある。
- 「M字カーブ」が全国平均と比べて、北海道はかなり下回っている。社会に出た女性が働き続けることが大切。ものづくりでは、食品製造関係は女性が多いが、工業製品はなかなか来てくれない。高校生や大学生に目を向けてもらうためには、最終的には親の理解が必要。そういう意味では、道の情報発信を使って、ものづくりのすばらしさを道民に知らせていけば、高齢者、若者にもおもしろさが伝わるのではないか。
- なでしこではトイレ・更衣室など具体的なものがあるが、その他のところも踏み込んで書けない部分もあるだろうが、よりわかりやすい取組を書き込むことを難しいかもしれませんが検討いただきたい。

## (2) その他

- 仕組みづくりには予算が必要。道はどのような形で積み上げていただけるのか。最初のきっかけはどのような形でしていけばいいのか。
  - 伝統的な方法としてはたくさんの機関が集まって、協議会を作って進める方法があるが、伝統的すぎて今の時代にあわないと思う。一つ一つの事業を所管するところと取組のパートナーごとに一緒に事業を進めていくことがいいと思う。

○ 関根 部会長

これまでいただいた意見などにつきましては、事務局で整理を行い、12月に予定されている商工業振興審議会に報告する。報告内容に係る事務局との調整については、私に一任願いたい。

## 出 席 者

【委員】◎部会長（五十音順、敬称略）

安孫子 俊之	江別製粉㈱	専務取締役
鴨田 秀一	室蘭工業大学	地域共同研究開発センター長
◎関根 久修	株式会社日本政策投資銀行	北海道支店長
土谷 敏行	株式会社土谷製作所	代表取締役社長
日詰 良子	日詰工業株式会社	代表取締役

【オブザーバー】（敬称略）

一般社団法人 北海道農業機械工業会	専務理事	原 令 幸
地方独立行政法人 北海道総合研究機構		
産業技術研究本部 ものづくり支援センター	研究主幹	畑 沢 賢 一
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構		
北海道職業能力開発大学校	校 長	前 田 康 二
厚生労働省 北海道労働局職業安定部	求職者支援室長	志 村 和 信